

令和7年度 上尾市立西小学校 学校評価書

★自己評価の評価基準 A：できている B：どちらかと言えばできている C：どちらかと言えばできていない D：できていない

★学校関係者評価の評価基準 ☆自己評価と同じ評価の場合 → 自己評価は妥当であると判断 ☆自己評価と異なる評価の場合 → 学校関係者評価委員会としての見方を示す

領域	自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
I 教育目標の具現化・円滑な学校運営	1	<p>■西小は、学校教育目標（素直で明るくかしこい西小っ子の育成）や目指す学校像（魅力ある 信頼される学校）の具現化に向かって、学校（学年・学級）運営や学習指導、その他の教育活動の工夫改善に取り組んでいる。</p>	<p>◆安易な従前主義を排し、小さなことでも課題解決と改善を図るための検討や見直し、工夫に、熱意・誠意・創意をもって、真摯に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポストコロナ禍における教育活動の進化と深化 ・学校における働き方改革の推進を踏まえた上での価値ある取組の精選、実施 	A	<p>○児童・保護者ともに、A+Bの数値が昨年度を上回っていたためAとした。</p> <p>○各分掌主任、学年主任を中心に教育活動の実施を検討し、諸行事・諸活動を実施することができた。</p> <p>◆教職員は、A、B共に昨年度と同じである。教職員一人一人がチーム西小の一員としての意識をもち「目指す児童像」の実現に向けて教育活動を推進していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア、担当学年、各分掌等での情報共有が密に行われた。 ・毎日のグループウェアでの指示伝達・連絡事項の確認が徹底されている。 	A	<p>○今後も目標に向かっていくための方策の工夫改善に努めてほしい。</p> <p>○行事や学習の取組に学年で協力し合っていることが分かった。これからは日常生活や学習態度の中で子供を認め、褒めていただくことを望む。</p> <p>○英語の授業を見させていただいたが、熱意を感じた。</p>
	2	<p>■西小は、教職員それぞれが能力を発揮し各分掌（役割）や各学年が連携協力して質の高い学校づくりを目指すために行動している。</p>	<p>◆教職員それぞれがチームワーク行動を発揮して、組織力の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア段階に応じたチームワーク行動の重点の実践 ・毎日のグループウェアでの指示伝達・連絡事項の確認、情報共有、共通行動 ・一部教科担任制の実施や深い学びを追究する教材研究、制作教材の共有 ・いじめ、問題行動等へのチームでの対応 	A	<p>◆「西小ハローウィーク」「PRAISE週間」などをはじめ、教育活動の様々な場面で教師が意識して児童を認め、励ましていく取組を継続していく。</p> <p>◆今後も自己有用感のさらなる醸成のため、どの児童も良い点が認められ、ほめられる場面を教員が意図的に設定していく必要がある。</p> <p>◆学校全体で基準を統一し、児童の指導方法の工夫・改善を行っていく。</p>	A	
	3	<p>■西小は、教職員が児童のよい点を認め、ほめるとともに、いけないことは毅然と叱り、一人一人を伸ばすことを念頭に教育にあたっている。</p>	<p>◆教職員が連携して、児童一人一人のよい点を見つけ、ほめて伸ばす教育に取り組む他自己有用感の醸成と生徒指導・教育相談を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級担任と教科担任、養護教諭の連携 ・複数教員の協力体制による指導の実施 ・学級活動等における称賛場面の設定 	B		B	

領域	自己評価			学校関係者評価			
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言		
Ⅱ 学習指導・学力向上	4	<p>■西小は、教職員研修を積極的に推進し、教職員の資質を高め、指導力及び業務遂行力の向上を図っている。</p>	<p>◆市委嘱研究発表に向けた取組を推進するとともに、現職職員研修の充実にも取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会及び研究協議の実施 ・外部講師を招聘した研修の実施 ・日々の業務に必要な研修の実施 ・グループウェアの記事をとおした自己研鑽 	B	<p>○1月27日に、上尾市教育委員会委嘱外国語科・外国語活動・英語活動の研究発表会を指導者、来賓、参会者を迎え、実施することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者を招いての低・中・高ブロックのプレ授業の実施により授業構成を学年で共有することができた。 ・毎時間のALTとの授業プランの打ち合わせを密に行うことができた。 	B	<p>○小学校の国語科・外国語活動・英語活動のあり方をしっかり捉え、子供たちにとって抵抗なく楽しい取組であってほしい。</p> <p>○職員・保護者と児童の差が大きいのが、児童の意見を見ればA評価でもよいと感じる。</p> <p>○興味を持ちやすい音楽、スポーツ、食べ物等を使い、親しみやすい授業を行うとよいのではないかと。</p>
	5	<p>■西小は、教育課程や指導方法を工夫改善し、児童の主体的に学習に取り組む態度を高め、学力の定着に努めている。</p>	<p>◆創意工夫を生かした教育指導の実施、主体的・対話的で深い学びに通じる実践、個別最適な学び・協働的な学び、基礎学力、学ぶための5つの力の育成に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上プランの策定と実行 ・ユニバーサルデザインへの配慮 ・家庭学習習慣、非認知能力の育成 ・自己有用感を得られる場づくり ・認めてほめて伸ばす教育の実践 	B	<p>○教員・児童・保護者いずれも、「Chromebook」の校内外での活用は高まっていると感じている。</p> <p>○国・県・市の学力・学習状況調査の結果を分析し、児童に身に付けさせる学力、学力向上のための授業改善について見直しを行った。</p> <p>◆ICT（1人1台端末）の活用、教え合い（ペア・グループ活動）、少人数指導、合理的配慮など児童一人が「わかった」と感じられる授業を展開していくことが必要である。</p> <p>◆児童の「振り返り」を大切に授業展開の改善を行っていくことが重要である。</p>	B	<p>○ICT端末を活用している姿を家庭でも見ることができ、抵抗なく活用しているようである。その反面、漢字の書き順や計算など反復して学ぶ努力、調べ学習でも本を読み、大切なことを学ぶ、話し合う等の過程を大切にしたい。</p> <p>○ICT端末の活用とともに、書くことを身に付けていくことも重要である。書くことで、頭（脳）の活性化、記憶力の向上に繋がると思う。</p> <p>○家庭での読書の時間の関わりを大切にしていける必要がある。</p>
	6	<p>■西小は、コンピュータを活用する授業を推進し、充実させている。</p>	<p>◆「あげお 学びのイノベーション推進プラン」に基づくICT端末の日常的活用を具体化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ICT支援員との連携 ・プログラミング教育の着実な実践 ・「chromebook」の校内外での活用 ・「Google Workspace」「まなびポケット」の利用 ・情報モラル教育の充実 	A	<p>◆ICT端末の活用が高まり、児童も楽しいと感じているが、その一方、長時間の使用や短時間で答えを求めることができるなど課題も見られる。そのため、ICT端末に頼り過ぎず、授業内容を吟味し、デジタルとアナログのハイブリッド学習を導入することも大切である。また、使用のマナーについての情報モラルについても指導していく必要がある。</p>	A	
	7	<p>■西小は、英語でも、楽しくコミュニケーションを図れる児童が育つように、外国語教育を充実させている。</p>	<p>◆全担任が、ALTとのコミュニケーションを図り、レッスンプランを計画し、授業を進行できるように実践を積む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTとのコミュニケーションや連携 ・担任が主体となった授業の構成 ・レッスンプランに基づく授業の展開 ・ALTと児童のふれあいの場づくり 	B	<p>○毎週水曜日を「イングリッシュデー」とし、児童が英語に慣れ親しむ場を多く設定し、英会話に対する意欲を向上させることができた。</p> <p>○行間休み等で「スマイルタイム」を設定し、児童がゲームやチャンツに触れ、英語で楽しくコミュニケーションを図る場を設定することができた。</p> <p>◆今後児童が英語に触れる活動を維持できるよう、全体計画を作成、検討していくことが必要である。</p>	B	
8	<p>■西小は、読書に親しめる児童が育つように読書活動を推進し、充実させている。</p>	<p>◆学校図書館を活用する読書活動を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ ・学校図書館の環境整備 ・図書に関わるイベントの実施と貸出の促進 ・週末読書の推奨 ・アッピースマイル学校図書館支援員、学校応援団（読み聞かせ隊）との連携 	B	<p>○司書教諭と学校図書館支援員の連携により、児童の興味・関心を引く掲示物やイベントなどの取組により、児童の読書活動を充実させることができた。</p> <p>◆今後も児童の読書活動推進のため、図書資料の整備、充実を行っていく。</p> <p>◆限られた時間の中、意図的に読書をすく機会を設けているが、さらに2つの学校図書館を効果的に活用した読書活動を行っていくことが必要。</p> <p>◆その一方で家庭で本を読む機会は昨年度に比べ減少しているようである。（保護者の結果から）</p>	B	<p>○保護者の回答と児童の回答に差がみられる。児童が学校の様子をもっと保護者に伝えることで、数値が変わってくるのではないかと。</p> <p>○もっと本を読む機会が増えるように、図書室の配置（分類）等の工夫をすることも必要ではないかと。</p>	

領域	自己評価				学校関係者評価	
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言
Ⅲ 生徒指導・心を育む教育	9	<p>■西小は、しっかりあいさつができる児童が育つように指導を充実させている。</p> <p>◆職員が率先垂範するとともに、校長からの合言葉「5つのしっかり」、3内容6項目12の規律ある態度達成目標を意識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の学級指導 ・校長講話、朝会等での指導 ・保護者への啓発 ・児童が主体となった活動 	B	<p>○登校時は職員だけでなく、児童の計画委員によるあいさつ運動を実施し、進んで挨拶ができる児童を育成するための取組が定着してきている。水曜日には、英語でのあいさつ運動も行うことができた。</p> <p>◆校内では、進んで挨拶ができる児童が多いと感じるが、校長講話や担任による啓発により、地域の方への挨拶も進んでできる児童の育成が必要。</p> <p>◆教職員、児童に比べ保護者のA回答が少ない。家庭でのあいさつの大切さについても入学説明会や懇談会などで話していくことが必要。</p>	B	<p>○学校を訪問した際、職員や子供たちがよくあいさつをしてくれている。</p> <p>○登下校中の見守り中の対応であるが、挨拶をする児童は少ないと感じる。</p> <p>○あいさつ、言葉遣いは家庭の中でも話し合う、家庭で意識して取り組むことが大切。</p>
	10	<p>■西小は、正しい言葉をつかう心が育つように指導を充実させている。</p> <p>◆場をわきまえたり、呼び捨てなど心を刺すような言い方ではなく、おだやかな、優しい言葉遣いで学習や生活ができるように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常指導 ・授業での実践 ・道徳科 ・学級指導 ・ほめる教育の推進 ・公的な場では「さん」づけを徹底 	B	<p>◆言葉遣いについては、教師が率先垂範していく必要がある。</p> <p>◆比較的穏やかな言葉遣いになってきたが、学校全体で意識して、優しい言葉遣いとなるよう徹底していく。</p>	B	<p>○教員や家庭の大人の温かい声かけや見守りが穏やかな子供たちの生活に繋がっていくと思う。</p>
	11	<p>■西小は、きれいな学校にする心が育つように指導を充実させている。</p> <p>◆集中して、清掃や美化活動に取り組めるように清掃時間の指導にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の巡回指導 ・振り返りの実施 ・師弟同行 ・放送による啓発 ・無言清掃へのチャレンジ 	B	<p>○年度当初、そして日々の学年、担任の丁寧な指導により、毎日進んで清掃を行うことができています。今後も、教師が率先して清掃活動の範を示し発達段階に応じた清掃指導を行っていく。</p> <p>◆昨年に引き続き、無言清掃のチャレンジについては、その意義を指導するなど児童への意識づけが必要である。</p>	B	<p>○共有、共用施設（体育館、特別教室など）の後片付け、清掃など常にきれいな状態にしていくことが大切ではないか。</p>
	12	<p>■西小は、新規の長期欠席児童を出さないようにするための対応に、取り組んでいる。</p> <p>◆誰一人取り残すことのない、居場所のある温かい学級づくりに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ、不登校対策支援チームでの対応 ・欠席時の適切な対応 ・特別支援教育的配慮 ・SC、さわやか相談室相談員や関係機関との相談、連携 ・自己有用感の醸成 ・サポートルーム、サポート体制の整備 	B	<p>○児童同士のトラブルがあった時には、生徒指導主任を中心に担任、学年主任・管理職と連携し、迅速に対応することができた。</p> <p>◆一人一人に居場所のある温かい学級になるような学級づくりを意識することを心がけていきたい。</p> <p>○SC、さわやか相談員と保護者が面談を重ねることにより、保護者の不安、悩みに寄り添うことができた。</p> <p>◆サポートルームを利用する児童の実態に応じ、利用について共通理解を図っていくことが大切である。SRT（サポートルームティーチャー）不在時の対応についても検討が必要。</p>	B	<p>○関係諸機関、専門家、保護者との連携など長期欠席児童への対応をお願いしたい。</p>

領域	自己評価			学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価 ○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
IV 健康・安全・体力向上	13	<p>■西小は、保健、歯科保健、体づくりなどの充実させている。</p>	<p>◆性に関する指導、感染症の防止、むし歯予防、体力向上に関わる児童の意識とスキルを高められるよう指導を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命の安全教育の具体化 ・保健学習 ・歯みがきタイムの実施 ・学校保健委員会の開催 ・学校医等との連携 ・体育朝会、体育授業の工夫 	<p>○アレルギー対応研修や命の安全教育の実施など、健康に関する教育活動を積極的に行うことができた。</p> <p>○歯磨きタイムには、DVDを流し、児童が進んで歯みがきをする姿が見られた。</p> <p>○永久歯むし歯治癒率100%（乳歯は除く）</p> <p>◆学校保健委員会への保護者の参加が少なくなっている。授業参観や学校公開に併せて行うなど開催時期や内容について検討が必要。</p>	A	<p>○健康に関する教育を継続していくことが大切である。</p> <p>○保健、歯科保健、体づくりなどは、家庭でも話し合いたい。保護者の意識も高められたらよい。</p>
	14	<p>■西小は、生活安全・交通安全・災害安全に係る取組を充実させている。</p>	<p>◆けがや交通事故の防止、防災・防犯に関わる児童の意識とスキルを高め、指導を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全学習 ・安全点検 ・通学路点検 ・避難訓練、防災訓練、消防訓練 ・不審者侵入への対応、訓練 ・心肺蘇生法体験学習 ・交通安全教室 	<p>○小中一斉避難訓練では、熱中症予防のため、各教室での引き取りを行った。急な変更であったが、スムーズに行うことができよかった。</p> <p>○清掃中の避難訓練では、教育以外の場所にいる時の災害時の避難について学んだ。</p> <p>○通学班長会議を実施し、通学班で安全に登校するための意識づけを行った。</p> <p>◆登下校時の校内、正門周辺の自動車への対応。</p> <p>◆児童の心肺蘇生法研修、水消火器・煙体験など新たな取組も検討したい。</p>	B	<p>○清掃中の避難訓練は、いつもと場所や時間が違ったこともあり家庭でも話題に上がっていた。このように普段と違う取組を行うことが、児童の意識を高めていくことに繋がると思うので、このような取組を今後も行ってほしい。</p> <p>○防災講座（防災士を講師として）の開催</p>
	15	<p>■西小は、食に関する指導を充実させ、食物アレルギーによる事故防止にも丁寧に対応している。</p>	<p>◆バランスのとれた食事の大切さを理解させ実践できるようにする指導を充実するとともに、食物アレルギーによる事故防止の取組を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー対応マニュアルの実践 ・アレルギー対応児童の保護者面談 ・家庭科、食育に係る指導の充実 ・早寝 早起き 朝ご飯の啓発 ・ホームページでの給食情報の提供 	<p>○年度当初の教職員による食物アレルギーの発生を想定した訓練を今後も継続していく。</p> <p>○栄養職員によるエプロンシアターを実施し、児童の食への関心の向上を図った。</p> <p>○給食配膳時、喫食時における担任のアレルギー対応など給食事故防止の見守りの徹底。</p>	B	<p>○食物アレルギーがあることを周りの人に知ってもらうことで、事故防止につながる。突然発症することもあるので、食物アレルギー対象児童の情報や発生を想定した訓練など、教職員に周知徹底し、十分注意をしていくことが大切である。</p>

領域	自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
V 教育環境の整備	16	<p>■西小は、安全・衛生・美化の観点から施設や校舎内外を整頓し、整備を行っている。</p>	<p>◆児童が安心して学べる安全で清潔で潤いのある教育環境の点検と整備に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月例安全点検及び臨時点検、点検結果への対応 ・小破修繕の実施 ・花壇の整備 ・市教育委員会と学校応援団、PTA（保護者）との連携 	B	<p>○施設、設備は老朽化が進んでいるが、優先順位をつけ、予算を有効活用し整備・修繕に取り組んでいる。</p> <p>○毎月一度行っている安全点検を充実させ、細部まで確認することができるよう教職員の意識を向上させることができた。</p> <p>◆年度当初からずっと修繕が進んでいない箇所がある。担当課への速やかな修繕を引き続き依頼していく。</p> <p>◆体育倉庫や教材備品室の環境整備を今後も行っていく。</p>	B	○校舎内外の整頓、整備については、計画的に進めてもらいたい。
	17	<p>■西小は、教室や廊下などに適切な掲示を行い、教育環境を整備している。</p>	<p>◆季節や行事、学習内容・指導内容に合わせた作品の展示や掲示物の作成に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彩りや構成の考慮 ・あるべき所に必要な掲示 ・ユニバーサルデザインの考慮 ・児童作品の適切な取り扱い 	A	<p>○外の掲示板、職員室前の児童の作品、廊下や各教室など季節や行事、学習内容に合わせた掲示物を作成することができた。</p> <p>○委嘱研究発表に向けた掲示物など児童の関心を引く環境整備を行うことができた。</p> <p>○図工、書写の作品など職員室前の掲示は前を通る児童はもちろん多くの保護者に見てもらえることができた。</p> <p>◆児童の集中力を削いでしまうような過剰な掲示物は避け、今後もユニバーサルデザインを考慮しながら掲示物の作成を行っていく。</p>	A	○掲示物を通し、子供や教員の努力している姿を見ることができた。
領域	自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
VI 保護者・地域・関係機関との連携	18	<p>■西小は、学校の方針や取組、児童の様子などが伝わるように、積極的に保護者や地域に情報を提供している。</p>	<p>◆学校の方針や取組、教育活動の様子などが伝わるようにホームページや便り、学校配信メール（さくら連絡網）等とおして、保護者や地域へ情報を発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新 ・学校便りの充実 ・学校配信メールの活用 	B	<p>○昨年度に引き続き、学校・学年だよりをはじめ、下校時刻の変更や学級閉鎖、台風や降雪時の登校の通知、PTAからの連絡も迅速に配信するよう心掛けた。</p> <p>◆保護者が添付資料を見ていないこともある。一人でも多くの方に見ていただけるよう、連絡内容を周知できるよう繰り返しの声かけも必要。</p>	B	○配信メールを活用している様子が分かった。今後も、学校、家庭との連携を図ってほしい。
	19	<p>■西小は、コミュニティ・スクールとして学校応援団（PTA・保護者や地域住民関係団体等）の協力を生かして、学校運営や教育活動を充実させている。</p>	<p>◆保護者・地域の協力を仰ぎながら、児童の登下校の安全確保や学習活動の充実、教育環境の整備に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会での熟議 ・PTA（おやじの会含む）、学校応援団等との連携 ・出前授業、ゲストティーチャーの活用 	B	<p>○保護者の旗振り活動、地域の方の登下校時の見守りなど児童の安全のために活動をしてくださっている。</p> <p>○50周年行事のバルーンリリースでは、50名ほどの保護者のボランティアに協力してもらい、盛大に実施することができた。</p> <p>○学校応援団の方による朝の読み聞かせ活動を年間を通して継続的に行うことができた。次年度は、日課の変更に伴い、活動時間が変わるが、引き続き行っていく。</p> <p>◆PTA、おやじの会のメンバーの確保が難しくなっている。同様に、見守り隊の方も高齢化に伴い、メンバーが減少している。</p> <p>◆コミュニティスクールについての紹介を積極的に行っていく必要がある。</p> <p>◆日常の授業でもサポートしていただけるボランティアの募集や活用方法を検討していく。</p>	B	○限られた時間の中で大変だと思うが、いろいろな機関を使って、よりよい教育活動の実践に努めてもらいたい。

	20	<p>■西小は、幼稚園及び保育所（園）並びに中学校、地域との連携を図る教育活動を推進している。</p> <p>◆幼保小連携、小中一貫教育の推進など、関係学校等と一体となった教育活動の推進に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒との交流 ・授業見学、合同研修等小中教職員間の交流 ・中学校の定期考査にあわせた家庭学習強化週間の実施 	B	<p>◆来年度の小中一貫教育に向け、見通しをもった研修計画を立案することが必要。</p> <p>◆新しい形の幼・保・小の連携が必要であると感じる。（オンライン・町探検の時に保育所・幼稚園の前を通るなど）</p>	B	<p>○希望をもって幼・保から小学校へ、小学校から中学校へ進めるよう連携を取ってほしい。</p>
--	----	--	---	---	---	--